

# Soccer News Shiga

サッカーニュース

(発行) 滋賀県サッカー協会  
 (責任者) 理事長 奥村 弘  
 滋賀県栗東市小野796  
 TEL 077-553-5769  
 FAX 077-553-5788  
 e-mail shigafa@oregano.ocn.ne.jp  
 URL http://www.shigafa.com

(印 刷) 株式会社スマイ印刷工業



## 大谷未央選手の経歴

生年月日 1979年(昭和54年)5月5日 滋賀県大津市生

学歴 滋賀県信楽町立 朝宮小学校1986年4月入学

滋賀県信楽町立 朝宮小学校1992年3月卒業

滋賀県信楽町立 信楽中学校1992年4月入学

滋賀県信楽町立 信楽中学校1995年3月卒業

私立 京都西山高等学校1995年4月入学

私立 啓明女学院高等学校1997年4月転校

私立 啓明女学院高等学校1998年3月卒業

サッカー歴 チーム名

1988年~1991年 滋賀 朝宮スポーツ少年団

1992年~1994年 滋賀紫香楽レディースサッカークラブ

1995年~1996年度 西山高校サッカーチーム

1997年度 啓明女学院高校サッカーチーム

1998年~ TASAKIペルーレFC

代表歴 大会名・遠征先・合宿名

2001年12月 第19回アジア女子選手権(チャイニーズタイペイ)

2002年10月 アジア競技大会(韓国)

2003年6月 第14回アジア女子選手権(タイ)

2003年9月 第4回FIFA女子世界選手権(アメリカ)

2004年4月 アテネオリンピック予選(日本)

代表キャップ数 44試合出場 30得点(2004年4月26日現在)

田崎真珠株式会社 1998年入社工芸部1課配属

## 大谷未央選手



Q サッカーとの出会い  
 A 兄と姉ふたりともがサッカーをやっていたのでそれを見て一緒にやりたいなど遊びから始めました。兄と姉の練習についていた。母もやっていた。オリンピック出場にあたって、家族から、思い切りやれといわれたくらい滋賀でサッカーをしていたときの思い出

Q その頃のサッカーの夢は?  
 A 滋賀でしりの試合を見に行ってから興味がわいた。興味があつても真剣には思ってなくて「いいなあ」ぐらいでした。

Q サッカーナメ高校への入学のいきさつは?  
 A 西山高校を選んだ理由は、家に近くで、安心できるかなと思って。女子のサッカーチームがあつてサッカーができる環境が整っていたので。あまり遠くに行くのは不安だったので。

Q 今までやっていたサッカーとの違い?  
 A 体力面がちがった。走ったりとか、体力面の差を感じた。技術はそんなには思わなかったが、とにかく練習も走り込みとかあった。

Q どんな試合に出ていたのか?  
 A 大きな大会は、夏の高校女子選手権大会ぐらいに出場していた。京都では、女子サッカーチームは2、3校だった。1年からレギュラーでボランティアはオーバーだった。

Q 高3で転校したのは?  
 A 指導者の都合とともにレベルの高いところでやりたいという気持ちがあつて、思いきって転校した。

Q やめたいとかついとと思ったことは?  
 A 走りとかの時期やオフ明けは走りばかりでつらいが、やめたいと思ったことはない。結果がでると、やってよかったと思う。高い目標を持ってやることでこれえられた。

Q オリンピックを終えた感想  
 A 熟練と希望があったのに、自分自身うまくいかなくてすごく悔しかった。日本に帰ってきてすごく盛り上がっていたけど、まだまだなあと感じた。

Q 国外選手との違い?  
 A 高さとかは、どうしても補えないでの、技術面は日本のほうが上。チャンスはそれほどないけど、そこで決められたらもっといいサッカーができるかなと思う。

Q 今の目標は?  
 A とりあえずチームで国体でタイトルをとることです。

Q 滋賀県の女子サッカーを頑張っている子ども達へのメッセージ  
 A 私がやっているうちに、いろんなところ、いろんな形で見てもらいたいし、私自身そういう人たちへ夢を与えられるようなプレーを見せたいので、遊びでいいので頑張ってほしい。

Q 滋賀のサッカーへのメッセージ  
 A 応援ありがとうございました。ここで終わらず次の高い目標に向けて頑張りますので今後とも応援よろしくお願いします。

(9/3金12時頃 電話によるインタビュー)

## 大谷未央選手について

### 小学生時代

指導者(片木享央氏)のコメント



### 中学生時代

指導者のコメント



・技術的にもスピードテクニックもあり、上手であった。  
 ・身体はさほど大きくなかった。  
 ・練習は男・女別でしていたが、男子にも通用する子どももあった。  
 ・人一倍努力家だった。  
 ・サッカーの大好きな子供でした。  
 ・家でも道で1人リフティングなどの練習をしていました。

・クラブという名前であったが、内容的にはボールをけっていてただけのものであった。  
 ・本人は技術的にも上手であった。  
 ・サッカーナメ好きな子で、他の子より自主的に練習をしていた。



## 1. 会長あいさつ

滋賀県サッカー協会  
会長 土佐三夫

1946年10月、私も深まつた滋賀師範学校（現滋大附属小学校）の校庭にあったユーカリ樹の下に中村安蔵元滋賀県蹴球協会会長をはじめ10人が集まり滋賀師範学校蹴球部の復活、滋賀県蹴球協会の再結成を話し合ってから58年余りが過ぎたことは、当日参加した私としては誠に感慨深いものがございます。

特に今回永年の懸案でありながら資金不足をはじめ諸般の事情で実現できなかった『法人化』の大きな目的のために、力強く動き出すことができましたことは、誠に感無量で喜ばしい限りでございます。

しかし、体制が整うことは、活動の充実があってはじめて言えることでございますから、そのためにも、  
・事務局体制の充実

・キッズからシニアまで、各年代へのサッカー環境の提供

・各都市協会等の現状把握と連携の強化

の三点を活動の重点として、強力に遂行していくことが、今後の滋賀県サッカー協会の充実、発展の基本と考えられます。各位の力強いご支援とご協力をお願いしまして、ご挨拶いたします。

合掌

## 2. SFAキッズプロモーション

JFAキッズプログラムのモデルFA（パイロットFA）として昨年度（2003）から2007（H19）年度まで実施

- ・キッズ委員会を月1回開催（松木副会長・松田副会長兼技術委員長・奥村理事長・奥田理事・世古宗4種技術委員長・天川びわこ科学研究会事務局・協会事務局）
- ・キッズコーチ派遣事業：県下130園余りの幼稚園・保育園に対し、4～8月で延べ620回の派遣事業を行った。
- ・キッズコーチ育成事業：キッズインストラクターによる公認キッズリーダー養成講習会を4回開催。受講者232名、累計632名をキッズリーダーに認定。
- ・キッズフェスティバル開催：U-6（キッズ&レディース）とU-8を4回実施、延べ168チーム、約1,000名の参加があった。
- ・調査研究事業：びわこスポーツ科学研究会によるキッズのボール運動と遊びの調査研究

## 3. 「法人化」準備委員会

ミッション9地域／都道府県協会の活性化事業にそって、昨年度（2003）から開始

- ・委員会を月1回開催（森津副会長・松木副会長・奥村理事長・中島1種代表・渡辺2種代表・大塚3種代表・小嶋4種代表・伊藤女子代表・倉本審判部代表・太田技術部代表・協会事務局）
- ・来年平成17年（2005）年4月からの社団法人化にむけて、定款作り、経理面の整理、監督官庁である滋賀県教育委員会への提出書類の準備を行っている。
- ・8月28日（土）の臨時総会で、定款の概要の承認をうけ、12月か1月の臨時総会で、社団法人滋賀県サッカー協会設立総会を開催予定。

## 4. フットボールセンター設立準備委員会

サッカーを中心としたモデルのスポーツ環境整備助成事業（助成区分B）に採用され、守山市とともに事業開始

- ・委員会を4回開催（土佐会長・皆木副会長・松木副会長・松田副会長兼技術部代表・奥村理事長・北村副理事長・桑野1種代表・渡辺2種代表・川崎3種代表・藤澤4種代表・小林女子代表・藤居審判部代表・原競技部代表・山本フットサル代表・協会事務局）
- ・天然芝1面、人工芝1面（照明付き）、人工芝1面（照明付き）、クラブハウス1棟の建設に守山市と協議し、建設図面の検討を行う。
- ・6月に実施した（仮称）野洲川歴史公園サッカー場の建設を求める署名で、4557枚、60537名分を回収、7月13日（火）に県協会6名と守山市2名で國松知事、世古県議会議長、斎藤教育長を訪問し、署名を提出、支援と協力を要望した。
- ・全国の施設を視察し、守山市に建設図面の要望をしている。人工芝1面とクラブハウスは来年（平成17年）7月完成、天然芝と人工芝各1面は来年11月完成予定。

## 5. スポーツクラブ創設準備委員会

上記事業のフットボールセンター建設にともなうスポーツクラブ創設の事業として今年度から開始。

- ・委員会を8月から月1回開催（橋本副会長・松田副会長兼技術委員長・奥村理事長・桑野1種代表・松下技術部代表・小林技術部代表・梅田技術部代表・原競技部代表・高野1種代表兼事務局・城山1種代表兼事務局・杉本スポーツマネージャーズカレッジ受講者・協会事務局）
- ・滋賀FC（仮称）設立を来年（平成17年）に予定し、フットボールセンターを中心に滋賀県サッカーの普及、強化事業の展開とクラブ経営のマーケティングを検討する。

## 6. 施設調査委員会

ミッション9地域／都道府県協会の活性化事業チャレンジFA制度に採用され、今年度から2006（H18）年度まで実施。

- ・委員会を7月から月1回開催（北村副理事長・松木副会長・奥村理事長・桑野1種代表・前田3種代表・上畠4種代表・山本フットサル代表・事務局）
- ・県下約300ヶ所の多目的広場・体育館等の現状調査を実施し、環境評価指数を決定、調査結果を協会ホームページに掲載し、施設の利用促進を図る。
- ・サッカー施設設備の充実を図り、3年後に環境評価指数を30%向上させる。

## 7. 中学生年代の活性化

ミッション4中学生年代の活性化トライアルFA制度に採用され、今年度から2006（H18）年度まで実施。

- ・担当者の安土3種代表理事を中心に事業を推進。
- ・栗東市の3中学校を中心に県下の中学生3年生に呼びかけて、中学3年生後半の時期の合同練習会や試合を月4回実施。栗東FCの協力で指導する。

## 8. 女子サッカーの活性化

ミッション6女子サッカーの活性化トライアルFA制度に採用され、今年度から実施。

- ・担当者の安土3種代表理事を中心に事業を推進。
- ・女子トレセンU-12、U-15、U-18の継続的な指導の展開、指導者の発掘と育成に努める。
- ・女子トレセン選手の活躍を通じ、県内の女子選手の普及活動を積極的に行う。



# 滋賀のトレセン活動

## 1 主旨

大きな主旨として、この滋賀県から日本代表クラスの選手を育て、送り出すためのトレセン活動だと思います。滋賀県のレベルアップを図るために各種別のスタッフと連携し、小中高（2、3、4種）の一貫指導を大切にしながら、各カテゴリーで必要とされるスキルやフィジカルの基礎・基本を重視したトレーニングを行っています。（基本的には日本サッカー協会の指導指針に則った指導をしています。）

また、各年代でさまざまな大会に出て技術を磨いたり、他府県のトレセンと交流を持ったりと活発に活動してもらっています。

そして何よりも、滋賀県独自の活動のひとつに海外遠征があります。滋賀県サッカー協会のご支援・ご理解・ご協力のおかげで、2種はヨーロッパに、3種は南米ブラジルに、そして4種は韓国にと、若い年代から国際経験をたくさん積んで、より高い意識・目標を持てるように、選手はもちろんのこと指導者もがんばって取り組んでいます。

## 2 各カテゴリーの活動紹介

	地域割り	活動(活動選手)人数	活動日・活動場所		地域割り	活動(活動選手)人数	活動日・活動場所
高校 2種	湖北 湖西 湖南 甲賀 の4地域と県トレ	それぞれ約25名 U-16 約20名	月に2回程度	小学 4種	湖北 湖西 湖南 湖東 甲賀 の5地域と県トレ	それぞれ約25名 U-11 約25名 U-12 約25名	月に2回程度
中学 3種	湖北 湖西 湖南 甲賀 の4地域と県トレ	それぞれ約25名 U-13 約20名 U-14 約20名 U-15 約20名	月に2回程度	女子	U-18 U-15	それぞれ約25名	月に2回程度

## 3 トレセン活動について

トレセン活動の日程は、前もって各選手の所属チームや登録チームに配布されていると思いますので、どんな練習をしているのか、どんどん見学に来てもらいたいと思ってます。その中で大いにディスカッションし、よりよいトレセン活動となればと考えています。また、県トレセン委員会では、各種別・各地域のトレセン練習会の報告書の作成をお願いしています。その日にどんなテーマでどんな練習をしたのか等をまとめて、各選手や指導者に渡るようになっていますので、是非ご活用ください。

トレセンの活動は、各チームの選手をお預かりして成り立っています。各チーム・指導者には、大変ご迷惑をおかけ申し訳なく思うと共に深く感謝しております。今後ともご協力・ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

## 4 エリートプログラムとは

「世界基準を目指す選手の育成」を目的として、U-14・13の選手を対象とした集中合宿（トレーニングキャンプ）や海外遠征等、年間を通じた活動を「JFAエリートプログラム」と呼び、今年度から開始します。通常のユース年代のトレーニングキャンプと比べると、より「選手育成」に主眼を置いた活動となるため、多種多様なプログラムをトレーニングの間に取り入れ、サッカー選手としてだけでなく、人間としての成長を促すきっかけを選手たちに提供したいと考えています。

また、合宿や遠征を行っていない期間も監督・コーチは選手たちと連絡を取り、所属チームでの活動、負傷・障害、学校での勉強など、オンザピッチ、オフザピッチを問わず、日常的（継続的）に指導を行っていきます。そのため、監督・コーチは、選手たちにとって、エリートプログラム上の「担任」としての役割も持つことになります。

## 5 そのエリートプログラムでがんばっている吉留一貴君（甲南中2年）の紹介

### ①将来の目標

僕の将来の目標は、このエリートプログラムをきっかけにもっともっと上をめざし、日本を代表する選手になりたいです。そして、世界に挑戦し世界からも認められる選手になりたい。そのためにも日々の練習を大切にしたいです。

### ②練習中大切にしていること

僕は練習中、常に心がけていることは、集中し活気のあるいい雰囲気でトレーニングできるように、大きな声を出すことです。もちろん僕ひとりが大きな声を出してがんばってもこのいい雰囲気は作れません。チームメイト一人ひとりが意識し、大きな声を出してがんばれるそんなチームでありたいと思っています。チームみんなで励まし合い、一丸となって僕たちの目標である全国制覇を目指して、キャプテンとしても自分から進んでいい雰囲気でトレーニングできるようにがんばっていきます。

### ③エリートプログラムに参加して感想

僕はこのエリートプログラムキャンプに参加して、1番に感じたことはいろんな意味での「激しさ・厳しさ」でした。たとえば1対1のトレーニングでDFがぬかれても、後から追いかけスライディングをかけ、それを阻止する姿勢（取られたら取り返す・戦う姿勢）を見てもそう思いました。そして、このレベルまでくると技術面はもちろんのこと、精神面でも甘いことは通用しないということがわかりました。

2番目は、すばらしい環境でサッカーができるということです。自分がサッカーできるのは、両親はもちろん、奥野先生をはじめ小学校や中学校、各トレセンの指導者のおかげだと感謝しなければならないと感じました。